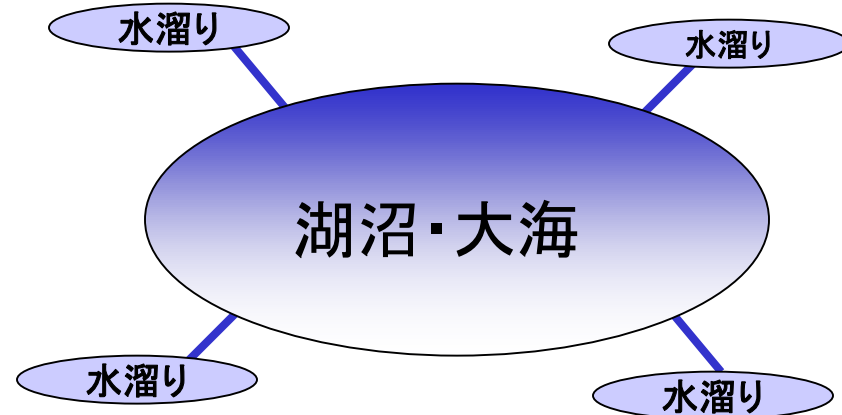
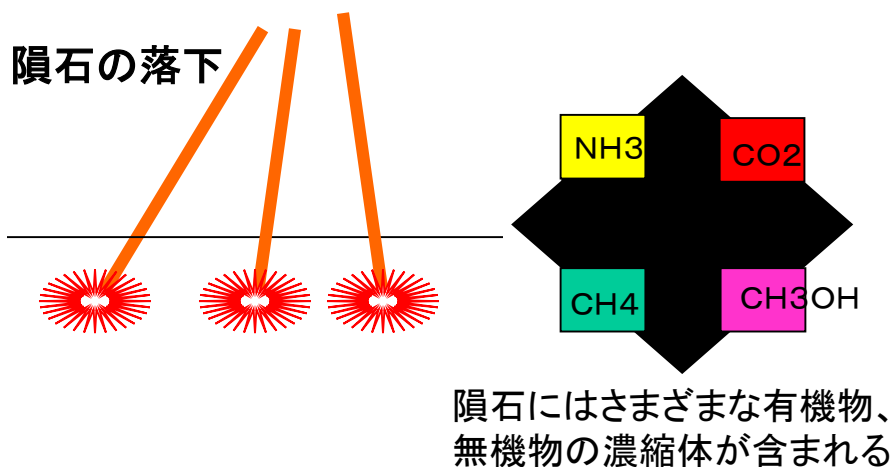
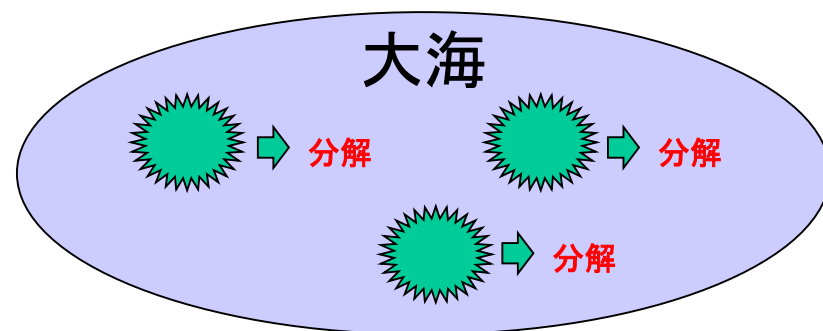
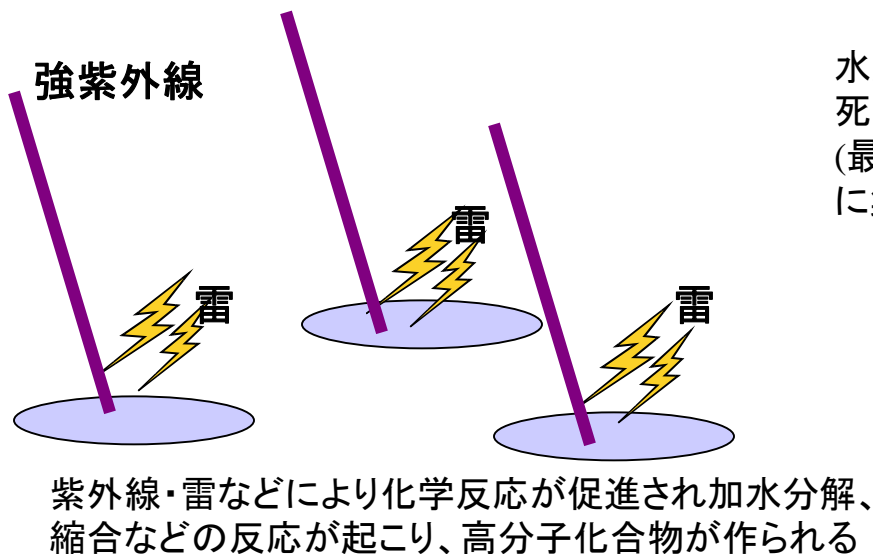


生物誕生のシナリオ

地上水溜説(地上の水溜りが生命の誕生場所であるという説)



水溜りで発生した大量の高分子化合物が、互いに作用し合い死・淘汰が繰り返された結果、生き残ったDNAが最初の細胞(最初の生物)に進化し、やがて水流作用によって、湖沼や大海に集められ、そこで自活できる生物へとさらに進化を遂げた



大海ではDNAやタンパク質は比較的簡単に作られる。ただしそれらの高分子はたちまち分解されて、生命とはならない。

最初の生物

最初の生物は推測の域を出ない。ただしあくまで(現在起こっている事象と比較しながら)科学的に考察する。

細胞膜の原型

アミノ酸などが混入

DNA

タンパク質

DNA近傍で細胞膜となるタンパク質が作られる

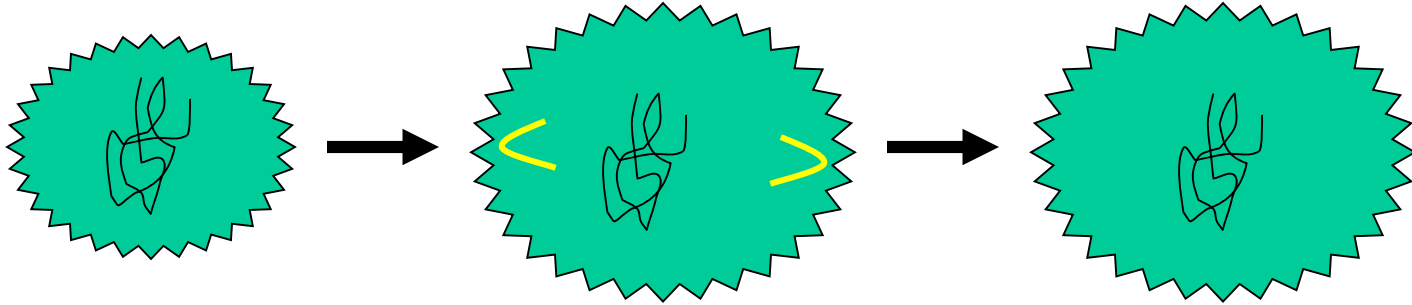
細胞はたちまち破壊され、紫外線、熱などによってDNA上の突然変異は度々起こる。

閉鎖された領域(細胞膜の原型)がなければ化学反応は促進されない。やがて、DNA近傍で作られたタンパク質(または脂質、糖鎖)をもとに、自ら細胞膜を生成できるようになる。細胞膜の複雑な構造は、細胞質(DNAやタンパク質系酵素など)に勝るとも劣らない重要な意味を持つ。

細胞内部でさまざまな化学反応が生じて、DNAの複製や細胞膜の生成などが行われる。ただし不明な点、疑問点は多い。

最初の生物

浸透圧によって細胞膜は肥大化するが、膜は内部で常に生成される。
膜が生成するためには、絶えず細胞内に材料となる物質の補給が必要となる。それが滞れば細胞は死ぬ。
(膜破壊による破損)



DNAが分離した際、中間点に残る脂質やタンパク質等細胞膜の部品が絡みつき、膜と同じ構造が両側に生成される。
この中間点にできた二つの膜構造が互いに接する面の親水性によって、左右に分離する。それが細胞自体の分裂を引き起こす。

